未来創造

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

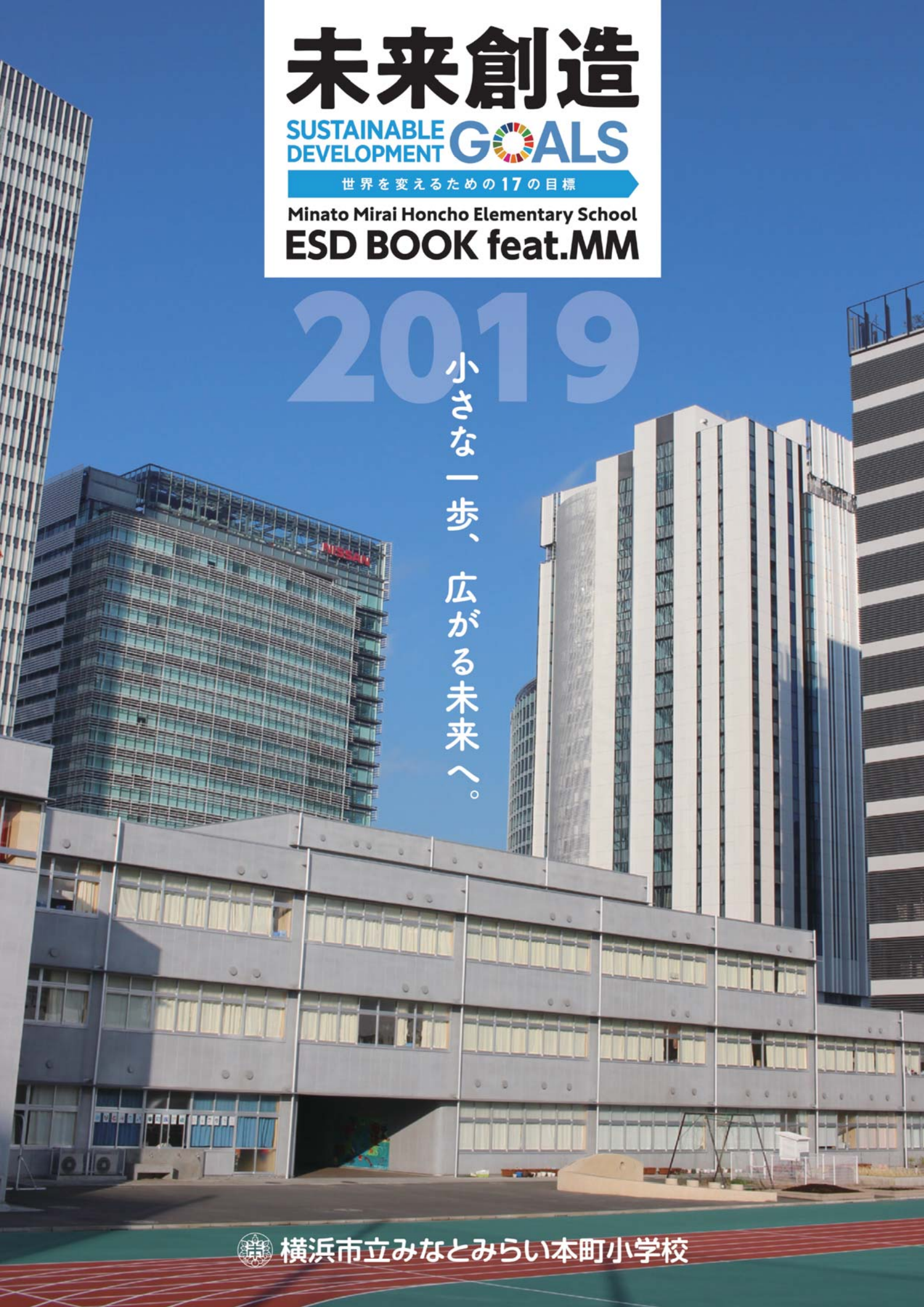
世界を変えるための17の目標

Minato Mirai Honcho Elementary School

ESD BOOK feat.MM

2019

小さな一歩、広がる未来へ。



横浜市立みなとみらい本町小学校

未来創造 Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2019

1 はじめに

2 学校づくり

- 2 みなとみらい本町小学校とESD
- 3 ロジックモデルを用いたESDの可視化
- 5 みなとみらい本町小学校　ロジックモデル
- 6 アンケート結果と分析

7 実践事例（2019年度の学級の取り組み）

- 7 実践事例の見方
- 8 学習室
- 10 1年生
- 16 2年生
- 20 3年生
- 24 4年生
- 28 5年生
- 32 6年生

36 学校行事

39 学校運営協議会／みらい共創ネットワーク！

40 編集後記

はじめに

本校は2018年４月、横浜市立本町小学校より学区分割により開校しました。その開校宣言の通り、持続可能な社会を創り、その担い手となる子どもの育成を目指して、開校1年目より「ESD（Education for Sustainable Development／持続可能な開発のための教育）」に全職員で取り組んできました。

ESDを中核に据えた学校づくりを進める上で、大きな課題のひとつが、児童・保護者・地域・外部協力者、そして教職員といった学校に関わる多様な関係者（ステークホルダー）の間でのESDについての共通理解でした。ESDは多様な領域や課題、アプローチ（扱い方）があり、どのような資質能力を通して、どのような目標を目指すのか、とても汎用的であるだけに分かりづらいとも言われ続けてきています。

それらを整理し、可視化し、学びの主体である子どもをはじめ様々な関係者で共有できるものが必要だと考え、東洋大学教授米原あき先生のご指導をいただき、ロジックモデルの策定とプログラム評価の実践に取り組んできています。本誌では、今年度の取り組みを中心に、これまでの進捗をまとめました。

2020年は、新学習指導要領が全面実施されます。ESDへの取り組みは、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」の理念の具現化そのものだと思います。また、2030年のSDGs達成に向けた「ESD for 2030」もスタートします。本誌がこれまでの本校の足跡とともに、これからの10年間のはじめの一歩となれば幸いです。

横浜市立みなとみらい本町小学校　校長

Kazubiko Komasa **小正和彦**

「これからの持続可能な社会の担い手となる人材を、〝本気で〟育てたい」――小正和彦校長の〝本気〟に引き寄せられるようにして、みなとみらい本町小学校の開校当時から、「自称・みなとみらい本町小ESD応援団員」となり、あっという間に２年が過ぎました。

この小学校にお邪魔するようになって驚かされたのは、学校の隅々に染み渡る〝本気〟の持続的循環です。小正校長のおおらかなリーダーシップのもと、先生方おひとりおひとりの〝本気〟がこの学校のESDの質を持続的に向上させ、好循環を生んでいることは、G20の視察対象に選定されたことや、ユネスコの国際学会に先生方が登壇されたこと、そして今年度は文部科学省のESD推進事業のモデル校になったことなど、わずか２年の間に起こった数々の「意図せざる異例な出来事」が証明してくれています。

そして、この「異例な報告書（本誌）」からも、この学校がもつ〝本気〟のエネルギーが感じられるのではないかと思います。

ESDはその名の通り、持続可能な開発を志向する教育活動全般を指す概念であり、特定の教科や教育内容を規定するものではありません。だからこそ、常に、「自分たちにとってのESDとは何か？」「ここの子どもたちにとってのESDとは何か？」と問い、創造し、具体化し、更新し続けなければなりません。

つまりESDの実践は、学習者である子どもたちにとっての教育活動であるのみならず、その実践を考案し、実施する教員や大人たちにとっても、常に新しい挑戦であり続けるということです。そしてこの教育活動は、本誌に収められた「ロジックモデル」に示されている通り、学校のなかだけで完結する活動ではありません。学校内外の多様な関係者の皆さんが「応援団員」となり、ともに思考し、ともに取り組むことで、さらなる好循環を加速させることができる、そのようなダイナミックな教育活動なのです。

先生方の〝本気〟が詰まった本誌が、「みなとみらい本町小ESD応援団への招待状」として、ひろく関係者の皆さまのお手元に届くことを願ってやみません。

東洋大学社会学部　教授

Aki Yonebara **米原あき**

みなとみらい本町小学校とESD

【学校教育目標】「みな（皆）」と「みらい（未来）」を創る子

問いを見いだして学び続ける◉くり返し身近なものに問題意識をもち、探究的に解決をすることを通して、よりよい社会や生活を創ろうとする子
多様性を認められる◉自分の内面と向き合い、自他の違いを認め、多様な文化や価値観を他者と共有しながら協働することで、自分なりの考えを見出せる子
多面的・多角的に物事を捉える◉一つの側面だけでなく、様々な立場や視点で物事を柔軟に捉えられる子
豊かな心をもつ◉豊かな感性を養いながら、多様な関わりのなかで自己の心身と向き合い豊かな心や健やかな体を育む子
まちに愛着をもつ◉まちと学び、これからの私たちのまちの未来をとらえ、語ったり考えたり、行動したりし、このふるさとに誇りをもつ子

持続可能な社会の担い手を育てるための「カリキュラムマネジメント」

◉ロジックモデルを用いたプログラム評価

包括的と言われるESD/SDGsの達成度合いを測るために、より具体的な活動（資質・能力）を明らかにした指標を作成し、カリキュラムマネジメントに生かす。

豊かな外部リソースを活用した教育活動

主体的に判断して社会に参画しようとする姿

自分たちの生活をよりよくするために行動する姿

教科横断的な学習（教科ベースから能力ベースへ）で推進する課題解決型の学習

◉生活科

●持続可能な社会の担い手の素地を養う

学習活動とSDGsを関連させながら、身近な生活やまちから課題を見出だしたり、友達と協働して解決に向かって取り組んだりして、できることから行動しようとする資質を養う。

◉総合的な学習の時間

●主体的な学びをつくっていく力＝個の学び

自ら見出した課題解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く追究し、発展的な課題解決学習を進め、社会参画しようとする資質を育てていく。

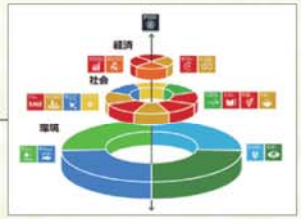
●コミュニケーション力・対話力＝集団の学び

相手意識をもち共感的に見たり聞いたりして、自分と異なる他者と協働しながら、よりよい未来の在り方を考えようとする資質を育てていく。

ESDを中核に据えた「スクールマネジメント」（⇒ホールスクールアプローチ）

2017年３月に公示された小学校学習指導要領において、「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられており、各教科においても関連する内容が盛り込まれている。そこで、**みなとみらい本町小学校では、環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学術的かつ総合的に取り組む**こととした。

そして、世界を変えるための17の目標SDGs達成に向けて、**子どもたちの発達段階に合わせ、地域の課題と関連付けて**取り組んでいく。



ロジックモデルを用いたESDの可視化

ESDやSDGsの中身を、子どもたちや保護者、地域の方々に分かりやすく伝えたい！

ESDやSDGsを開封（UNPACK）して、ロジックモデルをつくりました！

子どもたちにも、保護者の方にも、地域の方々にも、ESDやSDGsをみんなに分かりやすく伝えるために、まず「ESDやSDGs」という中身が見えない箱を「開封（unpack）」することにしました（東洋大学　米原あき教授談）。そして、ESDやSDGsを論理的なつながりをもって整理した「ロジックモデル」を作成しました。

学校に関わる多様な関係者（ステークホルダー）の方々と、ESD/SDGs推進のビジョンを共有したい！

ESD/SDGs推進のビジョンを、ロジックモデルにて整理しました！

ESD/SDGs推進の主体は、「子どもたち」「教職員」にかぎられたことではありません。本校では、「地域の様々な人々（企業／NPO法人／公的機関など）」「保護者」など、学校に関わる多様な関係者（ステークホルダー）の方々とESDやSDGsに関わるビジョンを共有し、一緒に活動を推進していくことを目指しています。

ロジックモデルにおいて、ESDやSDGsを「開封」したことを「何をするか／どんな行動ができるか」という視点で整理してみました。関係者のみなさんと一緒に活動を進めていくなかで、さらにバージョンアップしていきます。

ESDやSDGsを軸とした「スクールマネジメント」の取り組みをロジックモデルで伝えたい！

ロジックモデルの最上位目的（スーパーゴール）は、学校教育目標です！

【学校教育目標】「みな」と「みらい」を創る子

「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」
「問いを見出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」

学校教育目標は、ESDやSDGsで育成したい資質能力と関連付けて作成しました。さらに、作成にあたって、学校経営の様々な指針とも関連付けて作成してあります。

目標にある**「みな」は子どもたちだけでなく、学校に関わる多様な関係者（ステークホルダー）の方々も**含まれています。ロジックモデルで目標を共有し、**よりよい「みらい」を創る**ことを目指していきます。

横浜教育ビジョン2030 → ESD/SDGs → ESD推進の手引き → カリマネ要綱 → 中期学校経営方針

みなとみらい本町小学校　ロジックモデル

【最上位目的】

スーパーゴール	学校教育目標［「みな」と「みらい」を創る子］ 「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見い出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」の５つの資質を育成する。

【上位目的】

最終アウトカム	社会（まち・ひと）とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。

【戦略目的】

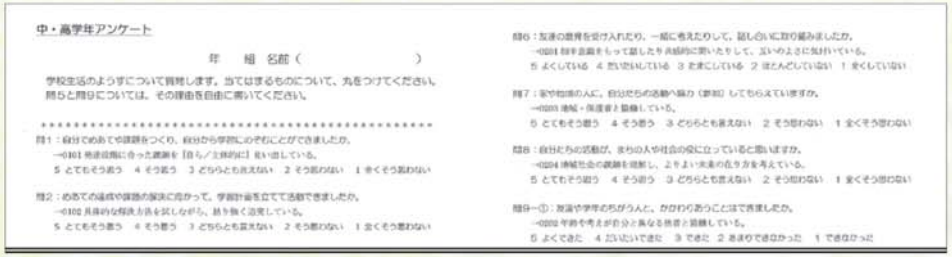
中間アウトカム	「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動から、社会（まち・ひと）の課題解決に向けて、さまざまな視点や立場に立ち、多様な他者の考えを共有しながら、地域・保護者・企業をはたらきかけ、社会に変化を起こせる子（※1）が育っている。　※1／社会に変化＝変容

ロジックモデルを活用して「カリキュラムマネジメント」に生かしたい！

ロジックモデルにもとづいて、アンケート指標を作成しています！

保護者の方にご協力いただいている「授業参観や運動会などの行事の際のアンケート」や「学校教育活動のアンケート」は、ロジックモデルにもとづいたアンケート指標から作成しています。また、子どもたちにも同様にアンケートを実施しています。これらを分析することで、達成度合いを把握することで、「カリキュラムマネジメント」に生かしていきます。

児童用のアンケート指標　※年に２回実施。低学年用と高学年用と２種類作成。



中・高学年アンケート

年　組　名前（　　）

学校生活のようすについて質問します。当てはまるものについて、丸をつけてください。
問5と問9については、その理由を自由に書いてください。

＊＊

問1：自分でめあてや課題をつくり、自分から学習にのぞむことができましたか。
―0101 発達段階に合った課題を「自ら／主体的に」見い出している。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問2：めあての達成や課題の解決に向かって、学習計画を立ててできましたか。
―0102 具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問3：学習や生活の中で、自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めていますか。
―0103 自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問4：友達の意見を受け入れたり、一緒に考えたりして、話し合いに取り組みましたか。
―0104 相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
5 よくしている　4 だいたいしている　3 どちらともいえない　2 ほとんどしていない　1 全くしていない

問7：家や地域の人に、自分たちの活動へ協力（参加）してもらえていますか。
―0105 地域・保護者と協働している。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問8：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。
―0204 地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問9―①：友達や学年のちがう人と、かかわりあうことはできましたか。
―0202 年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
5 よくできた　4 だいたいできた　3 できた　2 あまりできなかった　1 できなかった

問6：学習や生活の中で、自分たちの活動へ協力してもらえていますか。
―0203 地域・保護者と協働している。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

問9―②：学習や生活の中で、自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。
―0204 地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
5 とてもそう思う　4 そう思う　3 どちらとも言えない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

みなとみらい本町小学校　ロジックモデル

【最上位目的】

スーパーゴール	学校教育目標［「みな」と「みらい」を創る子］ 「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見い出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」の５つの資質を育成する。

【上位目的】

最終アウトカム	社会（まち・ひと）とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。

【戦略目的】

中間アウトカム	「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動から、社会（まち・ひと）の課題解決に向けて、さまざまな視点や立場に立ち、多様な他者の考えを共有しながら、地域・保護者・企業にはたらきかけ、社会に変化を起こせる子（※1）が育っている。　※1／社会に変化＝変容

- 最終アウトカム01　子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見い出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
  - 戦略0101　発達段階に合った課題を自分から見い出している。
    - 指標010101　身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
    - 指標010102　話合いを通して、学年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。
  - 戦略0102　具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
    - 指標010201　計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつ。
    - 指標010202　体験したり調べたりするなど、対（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。
    - 指標010203　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
  - 戦略0103　自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
    - 指標010301　活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
    - 指標010302　自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気付く。
    - 指標010303　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
- 最終アウトカム02　子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気付いている。
  - 戦略0201　相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
    - 指標020101　根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
    - 指標020102　相手の考えに寄り添って聞く。
    - 指標020103　ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話合いをする。
  - 戦略0202　年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
    - 指標020201　学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。
    - 指標020202　全校遠足や運動会などの行事や集会で、同じ目標をもって、たてわり活動に取り組む。
    - 指標020203　宿泊体験学習や宿泊地や活動で出会った方々の考えに触れ、土地の風土や文化を尊重しながら活動する。
  - 戦略0203　地域・保護者と協働している。
    - 指標020301　調査活動に、インタビューやアンケート調査を取り入れる。
    - 指標020302　調査を通して得られたことを取り入れながら、次の活動を進める。
    - 指標020303　「みなとみらいを語る会」などの発信を通して得た様々な立場の意見を取り入れながら、次の活動を進める。
    - 指標020304　地域・保護者から得られた振り返りをもとに、新しい視点の獲得や考えの深化を図っている。
  - 戦略0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
    - 指標020401　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
    - 指標020402　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
    - 指標020403　地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを発信したり行動したりする。
- 最終アウトカム03　地域の多様な人々（地域企業・NPO法人・公的機関・推進校など）が、本校の取り組みに関心をもち、協力している。
  - 戦略0301　本校の取り組むESD教育に理解を示し、推進している。
    - 手段030101　出前授業や見学などで、子どもたちの活動に協力している。
    - 手段030102　イベントやお祭りなどで、子どもたちの発表の場を提供している。
    - 手段030103　ESD/SDGsの取り組みに関する情報提供を行っている。
    - 手段030104　専門的な見地から子どもたちの活動を進める助言を行っている。
    - 手段030105　現代社会が求めている実像を子どもたちに伝え、教育活動に協力している。
    - 手段030106　本校との協働により、職員・社員の満足度が高まっている。
- 最終アウトカム04　保護者が、本校の取り組むESDの重要性を認識し、協働している。
  - 戦略0401　学校の情報発信を利用し、子どもたちの活動の意義を認識している。
    - 手段040101　学校だよりで子どもたちの活動を発信し、より身近に情報が見られるよう、学校だよりの電子化を活用する。
    - 手段040102　学校だよりやホームページ等での発信により、子どもたちの活動が社会生活の向上に役立っていることが分かる。
    - 手段040103　学校説明会や教育講演会などの機会を通して、学校教育目標への取り組みを理解する。
  - 戦略0402　ESDの意義を理解し、子どもたちと協働している。
    - 手段040201　授業参観や保護者ボランティア等で、子どもたちと共に活動できる機会に積極的に参加している。
    - 手段040202　子どもたちの活動に関心をもち、ESD推進の活動に協力している。
    - 手段040203　PTAや教育講演会などの活動で、ESDの視点を取り入れてもらう。
- 最終アウトカム05　教職員が、ESD/SDGsの目的を理解し、地域資源を活用しながら実践することを通して、自らの能力向上に努めている。
  - 戦略0501　学校運営に関して、全体で考えを出し合ったり共有したりしている。
    - 手段050101　必要な知識とスキルの獲得のために、研修を実施する。
    - 手段050102　学校運営や研究の方針に関して、全体で考えを出し合ったり共有したりする時間を確保する。
    - 手段050103　教職員間で気軽に相談したり助け合ったりできるサポート体制（学年部・メンターなど）がある。
    - 手段050104　外部人材や教材の学校としての蓄積（サーバー、文書）があり、アクセスしたいときに閲覧できる。
    - 手段050105　ロジックモデルの活動項目において、学年や教科を横断的に考え、共有を図るための研修がある。

アンケート結果と分析

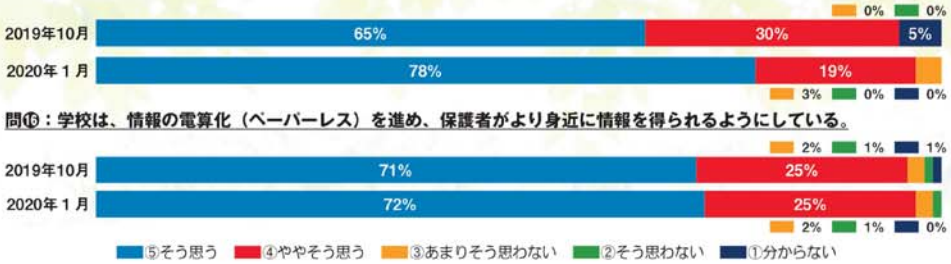
児　童アンケート　児童アンケートの結果と分析については、各学級のページに載っています。

保護者アンケート　10月と１月に学校教育活動アンケートを、保護者を対象に実施しました。
【回収数】10月：89／１月：154

保護者アンケート結果について ①

直接アウトカム0401に該当する本回答においては、全体的に肯定的な回答が多く、さらに後期での増加が見られました。情報の電算化を進めることで、HPや学校からのメール配信等で、保護者がより身近に情報を得ることができ、学校での活動や様々な取組の様子が伝わりやすくなっていると考えられます。

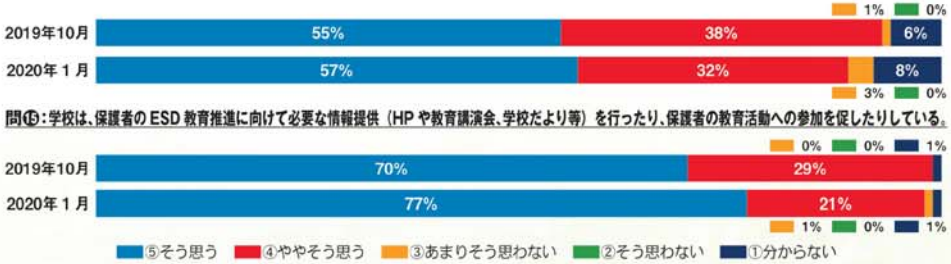
問⑫：学校は、持続可能な社会の担い手を育てるために、ESD/DSGs を意識した様々な教育活動を行い、子どもの学びを高めている。



保護者アンケート結果について ②

直接アウトカム0402に該当する本回答においては、全体的に肯定的な回答が多い反面、「分からない」の回答も見られました。教育講演会や授業参観、「みなとみらいを語る会」など、子どもの活動にふれたり、保護者を巻き込んで活動したりする機会を増やすことで、協働する第一歩になっていると考えられます。

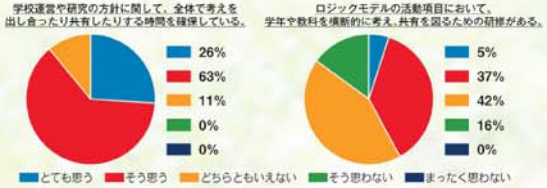
問⑭：学校は、地域や保護者の声などを学校運営に生かし、地域と協力して子どもを育てる活動を行っている。



様々な機会をとらえて、学校や子どもが自分たちの取組を発信することで、保護者のESDの意義理解が深まっていると考えられます。今後は、保護者も教育活動に参加しやすくなるように、さらに学校運営を改善していきます。

教職員アンケート　12月に今年度の学校運営アンケートを、教職員を対象に実施しました。

学校運営や研究について考えたり話し合ったりする時間があることで、ESD/SDGsの目的を理解し、同じ方向を向いて教育活動が行うことができていると考えられます。今後は、ロジックモデルの共有を図る研修等を重ね、よりよい教育課程の実施・改善に努めます。



実践事例（2019年度の学級の取り組み）　実践事例の見方

今年度の実践　生活科・総合的な学習の時間を中心に、学級ごとに、子どもたちの身近な問題や地域の課題を追究する課題に設定し、探究的に活動してきました。課題解決に向けて、本校の特色でもある豊かな外部資源や協力者と連携した実践を進めています。

また、校内だけでなく地域に出かけて、子どもたちが活動を発信する場を多く設定したことも特色です。

実践事例の見方　各学級の実践は、それぞれ見開き２ページにまとめています。

左のページ

ロジックモデルのどの項目を重点的に取り上げたか、特徴的なアンケート結果の分析、アンケートを実施した１月以降の子どもたちの様子や学びについて書いてあります。

【児童の様子】2019年４月の実態から「どうような資質能力」を伸ばしたいかを考えました。

【ロジックモデルの重点取組】資質能力を伸ばすために、ロジックモデルから重点的に取り組む項目を抽出しました。

【アンケート結果❶と❷】2019年10月と2020年１月のアンケート結果のうち、顕著なものや特徴的なものを２つ取り出して、比較・分析してみました。グラフは、学級全体数を基とした百分率で表しています。

【その後の児童の様子】2020年１月に実施したアンケート以降の子どもたちの活動や学びについて記載してあります。

右のページ

今年の実践を、活動写真を中心にまとめました。とくに、左ページに掲載したアンケート指標に関連のあるものを取り上げて掲載してあります。

【活動名（プロジェクト名）】

【活動のきっかけ】活動を始めるきっかけとなった子どもたちの思いや体験の内容を書きました。

【活動の様子】内容項目や時系列にまとめて、２～３段にまとめました。主に、上段は豊かな体験に基づいた学びの様子に関して、中段や下段は自分たちの考えを伝え合う様子や実践している様子に関して、記載してあります。

【協働・連携先】実践にあたり、主な協働・連携した外部機関・協力者の方々を記載しました。ご協力、ありがとうございました。

ご注意※本校の子どもたちの活動に共感していただき、特別にご協力いただいた方もいます。誌面でお名前を見て、ご連絡差し上げるのはご遠慮ください。

学習室

児童の様子　おたがいのことを考え、協力することの大切さや良さを感じることができる子が多く、思いやりがあります。これまでは、学校のなかで自分たちができることを考えてきましたが、どんどんと「みなとみらい」のまちへと視点が広がってきています。中間アウトカムにある、「他者の考えを共有しながら」コミュニケーションを図り、地域、社会とつながりを取り入れられるような活動をしてきました。

直接0203　地域・保護者と協働している。

直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。

間接0203　調査活動に、インタビューやアンケート調査を取り入れる。

間接0205　調査を通して得られたことを取り入れながら、次の活動を進める。

間接0203　「みなとみらいを語る会」などの発信を通して得た様々な立場の意見を取り入れながら、次の活動を進める。

間接0206　地域・保護者から得られた振り返りをもとに、新しい視点の獲得や考えの深化を図っている。

アンケート結果について ①

郵便局の局長さんに学校に来ていただいたり、今まで知らなかったことを教えてもらったりすることで、少しずつまちとの関わり感じたり、様々な気づきがあったりしました。１年間、郵便局の方々とくり返し関わることで、まちのひとに勉強を教えてもらっているという実感がさらに強くなりました。

とい❺：おうちのひとや、ちいきのひとにべんきょうをおしえてもらうことがありますか。 直接0203

アンケート結果について ②

１月のアンケートの記述欄には、自分たちが作った工作を郵便局に飾ってもらったり、学校にアンケートを取ってオリジナル切手を作ったりしたことが挙げられていました。自分たちの行動が学校やまちのためになっているということや、自分たちが行動することで変化が起きていることを実感していました。

とい❻：がっこうやまちのために、できることがあるとおもいますか。 直接0204

その後の児童の様子　１回目のアンケートをふり返ることで、自分たちが学習してきたことや活動がまちとつながるきっかけになっているということが分かりました。くり返し関わることで、子どもたちとみなとみらいのまちとの関わりが深まり、まちへの愛着も高まっているのを感じました。

自分たちが活動したことで、郵便局に作品コーナーが設置されたり、オリジナル切手を作ることができたり、まちに変化を起こすことができていると自信がついてきたようでした。クラスのみんなで一緒に目標に向かって取り組もうとする姿勢が見られました。

まちとなかよし ―めざせ★郵便局マスター!―

活動のきっかけ　みなとみらいのまちには、どんなものがあるのか知るためにまち探検に行きました。そのなかで一番気になった場所は、「郵便局」です。郵便局って何をしているところなのか、知らないことがたくさんあったことで、もっと調べてみたいと感じました。そして、学習室が「郵便局マスター★」となって全校やほかの学校の人たちにも、郵便局のことを教えてあげたいと思いました。

もっと知りたいことを郵便局の局長さんにインタビューしました。仕事の大変さに加えて、暑中見舞いの書き方や、オリジナル切手が作れることを教えてもらいました。また、実際にみんなで暑中見舞いを書きました。

「お金の使い方」や「良いお金（世の中でお金が循環している様子）」のことも教えていただきました。みんなで劇をすることで、良いお金がどのようなものなのかを知ることができました。

オリジナル切手の作成にあたり、様々なアイデアを出し合い、学校でアンケートを行いました。２月中には、オリジナル切手が完成する予定です。

【協働・連携先】みなとみらい四郵便局

1年1組

児童の様子　すべてのことが新しい1年生は、いろいろなことに興味津々です。身の回りの「？」を解決するために、学校探検をするところから学習をスタートさせました。自ら進んで人と関わることに苦手意識をもっている児童もいます。そこで、今までの経験を生かしながら、遊びを通して色々なヒト・モノ・コトと「なかよし」になってほしいと思います。

直接0102　具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
- 振返0102/01　計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつ。
- 振返0102/02　体験したり調べたりするなど、対（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。

直接0201　相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
- 振返0201/01　根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。

アンケート結果について ①

10月のアンケートでは、消極的な回答が学級の20～30%ありました。結果を受けて、交流学習で「なかよし作戦」の計画を立てる際に、積極的に友だちから活動へのアイデアをもらう単元に再構成しました。そのことで、活動にスムースに入っていくことができる児童が増えました。

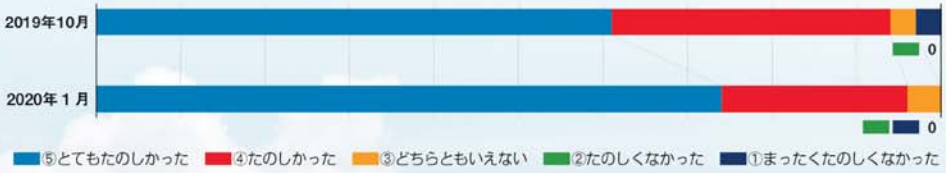
子どもたちは交流を通して、自分のなかにある思いを文や絵、言葉を使って表現することで他者とつながることができることを実感していました。１月の結果を見ると、消極的な回答をした層が半数以下に減りました。

とい❸：グループかつどうや、ペアがくしゅうでは、ともだちのいけんをききながら、がくしゅうするのはどうでしたか。 直接0102

アンケート結果について ②

園児とくり返し交流することで、相手意識をもって活動しようとする意識が芽生えました。自分と相手（年長児）の思いを擦り合わせ、意見が折り合わないときに折衷案を提案したり、相手の気持ちを考えて計画を立てたりする場面が見られました。アンケート結果を見ると、10月から１月にかけて積極的な回答をした人数が前回と比較して微増しました。今後も継続して園児と関わる場を設定し、体験を通して〝人と関わるよさ〟を実感できるようにしていきます。

とい❹：ちがうがくねんのともだちと、いっしょにかつどうすることをどうおもいますか。 直接0202



その後の児童の様子　朝の会や休み時間に、「昨日○○ちゃんと会った。元気そうだった」とペアの園児の様子を友だちに報告する児童がいました。

また、「次に会うときは○○したいな」と、次の活動への期待感をもってつぶやきを発する児童もおり、ペアの園児と最後まで活動を楽しみたいという思いが見受けられました。

レインボーなかよし大さくせん！

活動のきっかけ　10月、秋探検で高島中央公園に出かけた際、近隣の保育園児と出会い一緒に遊ぶことができました。その出会いをきっかけにして、「もっと楽しく遊びたい」「年長さんとなかよくなりたい」という思いをもち、幼保小交流をスタートさせました。

公園へ「秋の宝物」を見つけに探検へ出かけた際、園児と出会いました。

広い公園の芝生で「鬼ごっこ」や「はないちもんめ」をして楽しく遊びました。

「もっとなかよしになりたい」という思いから、学校に園児を招待することにしました。体育館を案内し、自分たちで考えた遊びで２回目の交流を楽しみました。

園児が帰る際、そっと近くに寄り添って荷物の整理を手伝う児童の姿が見られました。ペアの園児を思いやる気持ちが芽生えてきたようです。

園児と秋・冬の花の栽培をしたいと考えました。自分たちで育て方を調べて、道具や土を用意しました。花の種類は、園児の意見を聞きながら一緒に選んでいました。

園児の思いを汲み取って、ペアごとに活動を考えました。外で遊ぶペアもあれば、図書室を利用して絵本の読み聞かせをする児童もいました。くり返し関わることで思いが高まり、「これからも一緒に遊びたい」「花が咲く様子を一緒に見たい」と、活動を振り返りました。

しばらく会うことができないときは、手紙を通して交流を図りました。

【協働・連携先】にじいろ保育園みなとみらい

1年2組

児童の様子　学校に入学したばかりの１年生は、まだまだ学校のことで分からないことがたくさんありました。まずは自分の身の回りのことを行えるようにすること、また自分が気付いたことを表現することを大切にしてきました。

少しずつ、自分のことから、他学級、他学年など他者を意識した活動を増やし、相手意識をもてるような学習や体験を進めていきたいと考えました。

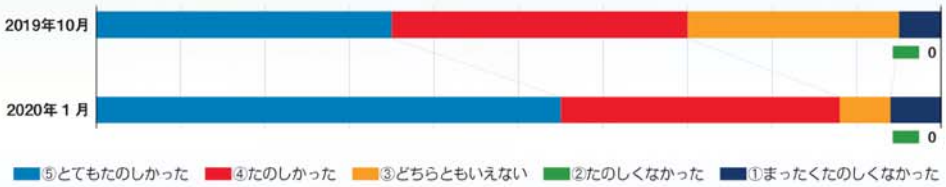
直接0201　相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
- 間接020101　根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
- 間接020405　相手の考えに寄り添って聞く。
- 間接020103　ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話合いをする。

直接0202　年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
- 間接020201　学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。

アンケート結果について①

10月は、まだまだグループで活動するよさや楽しさを味わえている児童が少ないです。そのため、どの教科でも積極的にグループ学習やペア学習を取り入れてきました。同じ目的をもち、協力して活動することを継続することで、普段のグループ学習でも協力して活動する姿が見られてきました。

とい❸：グループかつどうや、ペアがくしゅうでは、ともだちのいけんをききながら、がくしゅうするのはどうでしたか。 直接0201



アンケート結果について②

10月は、他学年との関わりが少ないことや成功体験が少なく、自分たちのことで精いっぱいだった前期の様子がうかがえました。１月にはみなとみらいを語る会や園児との交流で、自分たちが行ってきたことを自信をもって発表することで、子どもたちは他学年と関わったり、友だちと協力するよさを実感できるようになってきたりしたと考えられます。

とい❹：ちがうがくねんのともだちと、いっしょにかつどうすることをどうおもいますか。 直接0202

その後の児童の様子　「もっとこうしたい」「次はこんなことをしてみたい」と学習に意欲的になってきました。また、園児に対して「どんなことをしたら喜ぶか」「どこまで準備しておけばいいかな」など、相手を思った考えができるようになってきました。今後は自分ができるようになったことを家族や友だちに伝えることで自分を大切に、また他者を大切にできるような２年生を目指し、活動していきたいと思います。

みんなにこにこだいさくせん!!

活動のきっかけ　園児のためにできることは何かな。自分たちができることで喜んでくれることはないかな。「みんなにこにこ大作戦」では園児が笑顔になるために、安心して学校に入学してもらえるために、これまで学んできたことを生かして計画を立てました。

お花いっぱい大さくせん

春には自分の花を育てました。ふかふかのベッドにしたり、毎日水をあげたりと大切に育てました。

あきみつけをしよう

根岸森林公園や掃部山公園に探検へ行きました。どんぐりや落ち葉、まつぼっくりなど秋見つけをして、季節に親しみました。

みなとみらいを語る会

給食の残量が多いことが４月からのクラスの課題でした。学校探検で給食室を調べ、調理員さんが一生懸命作ってくれていることを学び、残食が減りました。

みなとみらいを語る会

「みなとみらいを語る会」では、自分たちの思いを伝えたり、考えた遊びを一緒に楽しんだりして、来てくれた人たちを笑顔にしました。

みんなにこにこ大さくせん

みんなにこにこ大さくせん

園児と球根を植えたり、どんぐりで作ったゲームで遊んだりしました。何度も交流を重ねることで園児が喜んでくれるにはどうしたらいいか、他者を意識して活動する力が少しずつついてきました。

【協働・連携先】ポピンズナーサリースクールみなとみらい

1年3組

児童の様子　子どもたちは、学習に意欲的で家庭での学習などから多くの知識を得て、自信をもっている姿が多く見られました。一方で、友だちの意見に耳を傾けたり、自分の意見を友だちに伝えたりすることの良さを見い出せていない様子がうかがえました。そこで、相手意識をもったコミュニケーション力を高めることが必要だと考えました。

- 直接0102　具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
  - 個別0102①　計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつ。
  - 個別0102②　体験したり調べたりするなど、材（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。
  - 個別0102③　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
- 直接0201　相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
  - 個別0201①　根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
  - 個別0201②　相手の考えに寄り添って聞く。

アンケート結果について ①

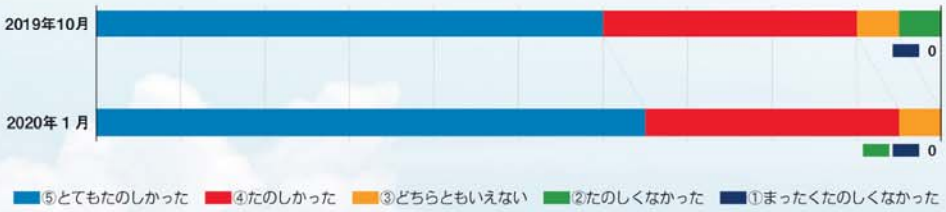
直接アウトカム0102に該当する本回答においては、全体的により肯定的な回答数の増加が見られました。くり返し何度も同じ材に取り組んだり触れたりしたことで、解決したり達成したりする成功体験を積み重ねてきました。そのことが、苦手なことに出会っても前向きに立ち向かう姿勢につながったと考えられます。

とい❷：にがてなことにであったとき、どんなふうにかんじますか。◀直接0102

アンケート結果について ②

直接アウトカム0201に該当する本回答においては、10月から全体的に肯定的な回答数が多く見られました。グループ活動やペア学習を基本とした学習形態を多く取り入れ、たがいに関わり合いながら一つのことを決めることをくり返して行いました。それによって、友だちの意見を聞きながら学習することを楽しむ児童が多くなったと考えられます。

とい❸：グループかつどうや、ペアがくしゅうでは、ともだちのいけんをききながら、がくしゅうするのはどうでしたか。◀直接0201



その後の児童の様子　一方的に自分の思いを伝えるだけではなく、友だちの意見に耳を傾ける児童が増えました。自分の考えと比べながら聞く姿勢が育ったことで、学級での話し合いでは、出た意見に付け足しをしたり質問をして深めたりしながら、クラスの方針を決められるようになりました。

せかいのみんなとなかよくなり～たい

活動のきっかけ　高島中央公園に「春探し」に行った際に、「自分たちも育ててみたい」という思いが出てきました。花が育ち、実になるところまで観察すると「大事に育てたお花を色々な人に知ってもらいたい」という意見が出てきました。同じ時期に、クラスにいた友だちが海外に引っ越したり海外から新しい友だちが転入してきたりしました。住んでいた国での生活の様子を話してもらったお礼に、自分たちのお花のことを教えたり折り紙でお花を折ってプレゼントしたりしました。

「おはなとなかよくなり～たい」では、自分が育てたい花を決めて、ポットやじょうろを準備して花を植えました。毎日水をあげたり、様子を見ながらお世話しました。夏休みに花が咲くと「もっと育てたいな」「いろんな人に教えたいな」と思うようになりました。

「せかいのみんなとなかよくなり～たい」では、転校してしまう友だちが通う海外の学校宛に、折り紙で花束を作って贈りました。今年はオーストラリア、ニュージーランド、フランスの３か国に贈ることができました。

「パプリカダンスの説明ムービーを作ろう！」では、世界のみんなと一緒にダンスができるようにパプリカダンスを英語で説明したムービーを作りました。グループで意見を出し合って、より良い表現を考えました。

「おはなとなかよくなり～たい２」では、まちの人のためにも花を育てたいと思うようになり、近所の高島中央公園の花壇にチューリップを植えさせてもらいました。

「みなとみらいを語る会」では、自分が興味のある国ごとにグループをつくり、その国を紹介しました。友だちから聞いたことをもとに、海外のまちのつくりや家の様子、食文化や気候などから伝えたい内容を選び、写真や絵を交えて発表しました。聞いてもらう人に「何を伝えたらいいか」を考えていて、相手意識が育っていました。

【協働・連携先】Our Lady of the Rosalie（オーストラリアの小学校）／高島中央公園愛護会　松本道雄様

2年1組

児童の様子　子どもたちは、本や家庭での学習などからたくさんの知識があるようです。一方で、活動や体験を通した学びは少なく、自分たちの住んでいるまちなどについて知らないことが多くあるようです。そして、SDGsを校長先生からの話をきっかけに知り、どんなことがSDGsなのか考えてみたいなという思いをもって活動を始めました。交流校であるマレーシアの小学校でも、SDGsのことを勉強していることを知り、自分たちの活動を紹介したいと思うようになり、この活動を始めることになりました。

直接0102　具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。

間接010202　体験したり調べたりするなど、材（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。

直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。

間接020401　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0102に該当する本回答においては、全体的に肯定的な回答が多く見られました。自分たちの考えていることを伝える機会を作り、関わり合いがより生まれるようにし、直接010202に近づくようにしました。地域の課題に対して自分たちにできることを実感し、まちの課題解決に向けて自分の思いをもって活動できるようになってきた成果だと考えられます。

とい❷：にがてなことにであったとき、どんなふうにかんじますか。 直接0102

アンケート結果について ②

直接アウトカム0204に該当する本回答においては、１月は全児童が「まちのためにできることがある」と回答しています。自分の身近なまちに対して、実際に人と関わりながら学んでいけるように人に出会える機会をつくるようにしました。また、学習が学校だけ、机上だけのことにならないように、家庭やまちの方とも連携を図るようにしました。みなとみらいを語る会では、各家庭でのSDGsの取り組みを紹介し、相互に深められるようにしました。

とい❻：まちのために、できることがあるとおもいますか。 直接0204

その後の児童の様子　日常生活のなかでSDGsを見つける活動を通して、学校だけでなく、普段の生活やまちのなかみんなでSDGsというゴールに向かっていることを実感することができました。クラスでは「リボベジ」を育てる活動を通して、捨てるはずの野菜の端にも再生する力が残っていることや、ごみとして捨てるのではなく有効に使える方法があることを知り、実際に活用できたことは大きな経験になりました。

みなとみらいのみどりをふやそう ―リボベジで考えるSDGs―

活動のきっかけ　「SDGsの本にあった緑を増やす活動をやってみたいな。Ｔさんの自由研究でやっていた野菜の端から緑を育ててみたい！」――そうしたら、SDGsの13番に関わって、地球温暖化対策としてできるかなと思い、活動が始まりました。

にんじんの「リボベジ（リボーンベジタブル／再生野菜）」です。

給食室の野菜の残りをもらって、リボベジを増やしました。

腐ってしまった野菜は腐葉土にする「復活リサイクルボックス」へ。

写真をもとに、何番と関わっていくのか、友だちとも保護者とも一緒に考えました。

学校内にある様々なものとSDGsとの関わりを考えました。

グループで話したことを全体に発表し、考えを広めました。

自分がしているSDGsの取り組みを家で撮った写真で紹介しました。家庭での実践のなかにもリボベジや植物を飾り、緑を室内にも増やすことで、気持ちよく過ごせることや「みなとみらい」のまちで行われているSDGsに関わる活動などについても、グループや全体で考えることができました。自分たちの生活もまちも、SDGsに関わっていることを感じることができました。

そして、学校のみんなにもリボベジのよさを知ってもらいたいと、隣のクラスや１年生を「リボベジ仲間」になってもらおうと準備をして、校内に広めました。リボベジの活動がSDGsに関わっていることを１年生に教えてあげました。またSDGsの取り組みをしているマレーシアの交流校にもリボベジ紹介ビデオを送り、SDGsをたがいに意識し、活動してもらえるように報告しました。

【協働・連携先】交流校　マレーシア R.E.A.L Schools Cheras Campus

2年2組

児童の様子　いろいろなことに興味をもち、自分たちにできることに積極的にチャレンジしたいという前向きな思いで、公園やまちのためにできることを真剣に考えていました。活動のなかで公園の管理には様々な人が関わっていることにも気が付き、公園の維持や管理に携わっている方々と協力して、よりよい公園やまちをつくっていくために自分たちにできることは何かを考えながら活動しました。

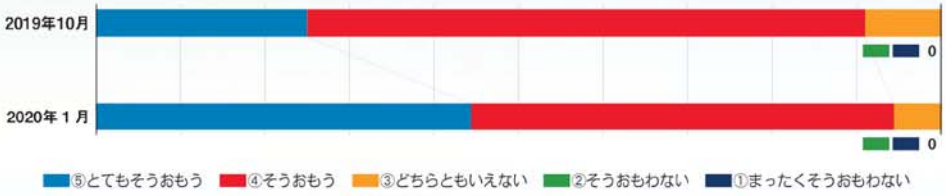
直接0101　発達段階に合った課題を自分から見い出している。
- 間接0101010　身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
- 間接0101020　話合いを通して、中年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。

直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
- 間接0204010　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
- 間接0204020　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0101に該当する本回答においては、全体的に肯定的な回答数の増加が見られました。公園に出かけ様々な体験をしたり、インタビューしたりしたことで地域の課題に対して自分たちにできることを実感し、まちの課題解決に向けて自分の思いをもって活動できるようになってきた成果だと考えられます。

とい❶：じぶんのめあてをもって、がくしゅうしましたか。 直接0101



アンケート結果について ②

直接アウトカム0204に該当する本回答においては、全児童による肯定的な回答が見られました。公園の愛護会の方と一緒にごみを拾う活動に取り組むなど、地域の方と協働的に課題に取り組んだり、自分たちが活動を通して気付いたことを全校児童や保護者をはじめ多くの方に発信する活動などを行ったりしたことで、自分たちの活動が社会の役に立っていることに気付くことができたと考えられます。

とい❻：まちのために、できることがあるとおもいますか。 直接0204

その後の児童の様子　地域の課題に対して自分たちにできることを考えて活動を行ったことで、地域や社会全体の課題に対して自分たちにできることから少しずつ取り組もうとする姿勢が見られるようになりました。小まめな電気の消灯、節水など身近にできる様々なことが、社会全体が抱えている大きな課題の解決への足掛かりになるということに、少しずつ気付き始めることができていました。

もっともっといいねがいっぱい高島中央公園

活動のきっかけ　普段からよく利用している高島中央公園へまちたんけんで出かけました。公園に何度も通っているうちに、公園の管理や維持には多くの人が関わっていることを知ることができました。

また、公園でたくさん遊んだり、季節を感じられるものを探したりしているうちに、きれいだと思っていた公園にもごみがあることに気付きました。そこで、どんな公園にしていきたいかのアイデアを出し合い、自分たちにもできることはないかと考えました。

高島中央公園でたくさん遊んだり、季節を感じられるものを探したりしました。公園にはみんなが楽しく遊べるような遊具や芝生のエリア、ゆっくり休めるベンチ、見ているだけで元気がもらえる花壇の花などがあることに気付きました。公園に来るいろいろな人のことを考えて公園がつくられていることを知ることができました。

高島中央公園愛護会会長の松本さんから、普段の活動やイベントについて教えてもらいました。

松本さんと一緒にごみを拾って公園をきれいにしました。ごみを拾いながら、公園のどこにどのようなごみが落ちているのかを調べました。

クラスのみんながどんな公園にしたいと思っているのかを伝えました。

公園のどこに、どんなごみが落ちているのかをマップにまとめて伝えました。

公園には、どんなごみがどのくらい落ちているのかが分かりやすくなるようにグラフにまとめました。

【協働・連携先】高島中央公園愛護会　松本道雄様

3年1組

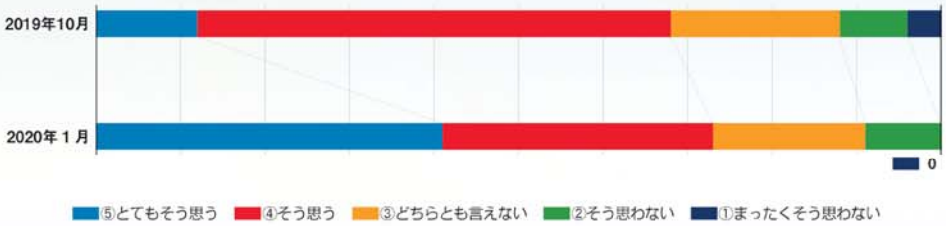
児童の様子　前向きな気持ちで挑戦したり、新しくできたことを自分ごとのように喜んだりすることができる子どもたち。
　自分の考えをしっかりともつことができる子が多い一方で、多様な考えをみんなで一つにまとめていくことに難しさを感じていました。

- 直接0101　発達段階に合った課題を自分から見い出している。
  - 臨評0101①　身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
  - 臨評0101②　話合いを通して、学年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。
- 直接0202　年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
  - 臨評0202①　学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。
  - 臨評0202②　全校遠足や運動会などの行事や集会で、同じ目標をもって、たてわり活動に取り組む。

アンケート結果について ①

　直接アウトカム0101に該当する本回答においては、肯定的な回答数の増加が見られました。活動を進めていくなかで、パラスポーツをただ体験するだけでなく、自分たちが発信する活動に移行していきました。その結果、相手の反応を受けとめ、試行錯誤しながらめあてを修正して臨んだことが成果としてあらわれたと考えられます。

問❶：自分でめあてや課題をつくり、自分から学習にのぞむことができましたか。 直接0101



アンケート結果について ②

　直接アウトカム0202に該当する本回答においても、肯定的な回答数の増加が見られました。「みなとみらいを語る会」で、関心のあるパラスポーツごとに分かれてグループで発表したり、西区ウォーキングフェスティバルで、参加された方に４年生と一緒に説明したりと、個人ではなく協力して取り組んだためと考えられます。

問❸−②：友だちや学年のちがう人と一緒に活動することを、どう思いますか。 直接0202

その後の児童の様子　２月に行われた「みなとみらい本町フェスティバル」で、保護者や地域の方に発信しました。スポーツを通して笑顔を広げていきたいという思いで活動を続けるなかで、知らないことに改めて気付き、興味や関心を広げながら追究できました。また、一方的に思いを発信するのではなく、相手意識をもって発信の仕方や内容を考えるようになってきました。

えがおでスポーツ3−1

活動のきっかけ　休み時間にはドッジボールだけでなく、できなかった鉄棒や縄跳びの技に挑戦するなど、体を動かすことが大好き。「友だちにアドバイスをもらって、できるようになるとうれしいな！」「みんなでスポーツをすると楽しいな！」「スポーツで笑顔にしたいな！」――そんなシンプルな思いがふくらんでいき、スタートしました。

シッティングバレーボール体験

ゴールボール体験

ボッチャ体験

　まずは、スポーツの祭典オリンピック・パラリンピックの映像を見たり、スポーツについて調べたりするなかで、自分たちの知らなかったパラスポーツがあることに気付き、やってみることにしました。パラスポーツを体験するなかで、だれもが楽しめるように考えた工夫があることを知りました。

高田夫妻との交流

高田夫妻との交流

葭原さんとの交流

　だれもが楽しめるように工夫したスポーツについて、実際にアスリートと一緒に体験したり、疑問点を質問したりしました。

福島さんとの交流

みなとみらいを語る会

西区ウォーキングフェスティバル

　目の不自由な福島さんから、生活の様子を聞きました。福島さんの視力が悪化したことにより、逆に見えた人の温かさなどの話は印象的でした。そのお返しに、福島さんにだれもが楽しめるように工夫したスポーツを紹介しました。その際に、「はじめて知って、知ることができてよかった」という福島さんの感想から、スポーツのよさを広めたいという気持ちを高めました。
　その後の「みなとみらいを語る会」や「西区ウォーキングフェスティバル」では、保護者や地域の方に、ボッチャなどの説明だけでなく、実際に体験してもらうことができました。活動を重ねて自分たちでふり返ることで、次の活動につなげようとする姿が増えていきました。また、共通したテーマで総合的な学習に取り組んでいるクラスの活動を見たり、共同で活動したりすることで、多様な考えを吸収しながら取り組むことができました。

【協働・連携先】障害者スポーツ文化センターラポール／西区・中区社会福祉協議会　福島一博様／横浜市西区役所地域振興課／パラアスリート　高田千明様・高田裕士様／日本ブラインドサッカー協会　葭原滋男様

3年2組

児童の様子　様々なことに興味をもち、「こうしたい」「やりたい」と意欲をもつ子が多いです。アイデアも多様なものがクラス内で出ますが、その活動の先に何があるのか、見通しをもっていませんでした。

そこで、子どもたちが課題に対しての解決方法を考え、追究して取り組める活動を行えるよう話し合いました。

直接0102　具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
- 間接0102D7　計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつ。
- 間接0102D6　体験したり調べたりするなど、材（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。
- 間接0102D5　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。

直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
- 間接0204D7　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
- 間接0204D6　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
- 間接0204D5　地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを賞賛したり行動したりする。

アンケート結果について ①

課題解決をするなかで、新たな疑問が生じたとき、話し合いのなかで様々な方法を出し合ったり、試したりすることで、多くの子がより自分ごととして活動を考えていました。また、「～したい」という思いや願いを共有したことで見通しをもって取り組むことができました。

問❷：めあての達成や課題の解決に向かって、学習計画を立てて活動できましたか。 直接0102

アンケート結果について ②

身近な地域の課題に目を向けることで、自分たちの活動が直接みなとみらいのまちをよくすることにつながっていると意識するようになりました。多くの場で活動による思いを校外に伝えてきてはいるものの、アンケート結果には変化がなく、活動による変化があまり実感できていないのではと読み取れます。今年１年で変化が見れるわけではなく、自分たちの活動によって今後どのように変化したかによって実感してくるのではと考えます。

問❸：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203 直接0204

その後の児童の様子　活動の先にどのような変化を期待するのか、それを続けるにはどうすればいいのか、先の見通しをもつようになってきました。自分たちの活動がより価値のあるものになるよう、自分たちの視点も入れつつ、まちに住んでいる人、働く人など、客観的な視点も取り入れることで、「持続可能なまちづくり」に向けての視点をもつようになりました。

3―2高島水際線公園を守ろうプロジェクト

活動のきっかけ　子どもたちが「みなとみらいのいいところ」を考えたところ、「海が近いこと」という意見が多く出ました。しかし「でも海って汚いよね」「生き物があまりいないよね」というイメージも子どもたちのなかにはありました。そこで、「自分たちが海に対してできることはないか」と考え、臨港パークや高島水際線公園での活動を始めました。

ハマの海を想う会　吉野さんの講話

高島水際線公園に生えている葦を刈る子どもたち

高島水際線公園に生えている葦を刈る子どもたち

高島水際線公園の現状を実際に見た後、ハマの海を想う会の吉野さんから話を聞き、公園の課題になっている生い茂った葦を刈ることにしました。活動するなかで「葦を生活の中心としている生き物は大丈夫だろうか」「獲った葦をこのまま捨てるのではなく、他のものにできないだろうか」など、新たな課題が生じると、そのたびにクラスで話し合いながら活動しました。

すだれ職人・田中さんによるよしず作り体験

よしず作り

よしず作り

すだれ職人の田中さんのアドバイスもあり、よしず作りに必要な道具は新たに購入するのではなく、再利用品（段ボールや石など）を活用して作りました。よしずの作り方や道具を試行錯誤するなかで、コースターやミニよしずなどグループのよさを生かしたよしずを作りました。

G20での発表

東京湾大感謝祭

みなとみらいを語る会

自分たちの取り組みを様々な場で発表し、発表を聞いた人の反応や声を聞くことで、これまでの活動の成果や課題が明確になり、今後の活動計画の見直しへとつなげました。

子どもたちは「今年１年間活動すれば、人にとっても生き物にとってもよい公園になる」とは簡単に考えておらず、今年の活動を足掛かりにこれからも高島水際線公園を守っていきたいと考えています。

【協働・連携先】ハマの海を想う会　吉野生也様／田中製簾所　田中耕太朗様

4年1組

児童の様子　スポーツに興味をもっている児童が多く、活発に活動し、友だちと一緒に楽しむことができます。ただ活動を楽しむだけにならないよう、活動したことから次の課題をつくるようにしました。一方で、課題を解決するための新しい方法にチャレンジすること、また、まちの人との関わりが少ないことが課題として挙げられます。

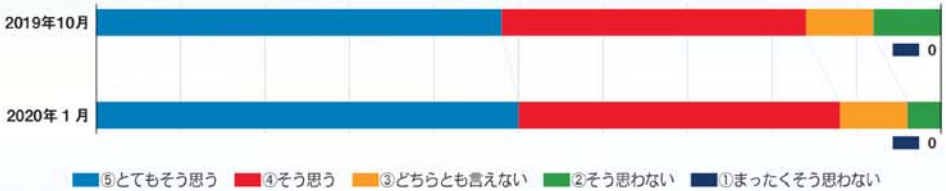
直接0103　自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
- 間接0103　活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
- 間接0103　自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気付く。
- 間接0103　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。

直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
- 間接0204　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
- 間接0204　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
- 間接0204　地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを発信したり行動したりする。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0103に該当する本回答においては、10月１月ともに肯定的な回答が８割以上を占めています。活動を通して出てきた新たな疑問から新しい課題を作り、課題を解決するための方法を考えることができました。ただ活動をするだけではなく、振り返りを充実させることで、新しい課題や方法にチャレンジすることにつながったと考えられます。

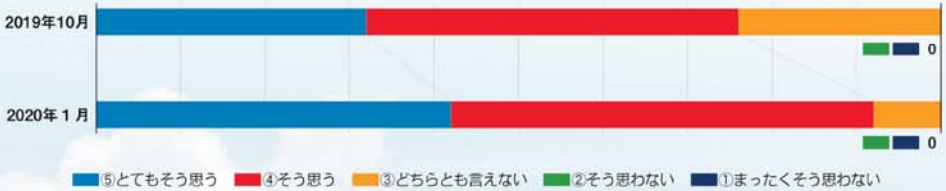
問❹：新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。 直接0103



アンケート結果について ②

直接アウトカム0204に該当する本回答においては、肯定的な回答数の増加が見られました。障害をもつ方や支援する方など様々な立場の方と関わることや、自分たちの活動の思いを保護者や地域の方に向けて発信することを通して、「まちの人や社会の役に立っている」実感をもつことができたと考えられます。

問❸：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203 直接0204



その後の児童の様子　みなとみらいの人たちは障害をもつ方との関わりをどのように考えているのか、インタビューをしてまちの人の思いを知りました。まちには、助け合う気持ちをもった人たちがたくさんいることを知った子どもたち。だれもが過ごしやすいみなとみらいにするために大切なことを考え、まちの人に向けて発信することにしました。

かがやくイワシプロジェクト ―たがいに気づかい助け合うみなとみらい―

活動のきっかけ　2020年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年。どんな競技が行われるのか興味をもち、前回大会のリオオリンピック・パラリンピックの映像を見ました。

そこで印象に残ったのは、楽しそうに全力で競技に参加するパラリンピアンの姿。だれもが楽しむことのできるパラスポーツの秘密について知りたいという思いをもちました。

ボッチャ体験

ブラインドサッカー体験

伴走体験

ボッチャ、ブラインドサッカー、シッティングバレー、伴走などのパラスポーツの体験をしました。体験を通して、その人に必要な工夫や支援をすることで、障害のあるなしにかかわらずスポーツの楽しさが味わえること、自分の限界に挑戦できたり全力で競い合えたりすることに気付きました。

高田夫妻

三嶋さんとじゃんけん

おどるなつこさん　音の輪体験

ブラインドサッカー選手の寺西さん、陸上選手の高田夫妻などのパラアスリートの方々や、スローレーベルの代表栗栖さん、おどるなつこさんなど障害のある方をサポートする方々と出会い、一緒に体験をしたり、話を聞いたりしました。

様々な人と関わるなかで、「ちょっとした工夫や気づかいで、障害を取り除くことができる」ということに気付きました。例えば、視覚に障害のある三嶋の時計は、カバーがはずれるようになっているそうです。文字盤を直接触ることで、時刻が分かるようになっているのです。また、声を出すなどの工夫をすれば、三嶋さんとじゃんけんを楽しむこともできます。

みなとみらいは、多様な人が集まるまちです。みんなが過ごしやすいまちにするために、ちょっとした気づかいをもち、助け合えるようにしたいという思いをもつことができました。

三嶋さんの時計

【協働・連携先】NPO 法人スローレーベル／日本ブラインドサッカー協会／横浜市体育協会／西区・中区社会福祉協議会／View-Net 神奈川　三嶋伸昭様／パラアスリート　高田千明様・高田裕士様／おどるなつこさん

4年2組

児童の様子　どのようなことでも自分たちの力で解決していきたいという思いが強く、地域の課題についても真剣に捉えていました。まちの自然環境のことやまちづくりのことなどです。自分たちでできることを考えている一方で、地域との連携に目は向いていませんでした。そこで、中間アウトカムにある、「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動を取り入れられるように活動を話し合いました。

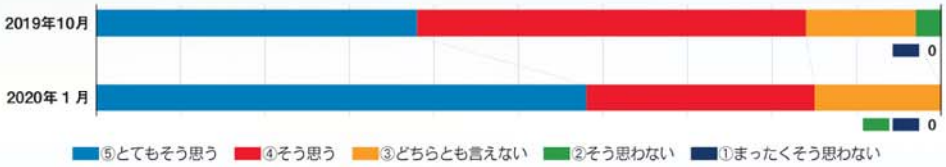
直接0203　地域・保護者と協働している。

- 協計0203　調査活動に、インタビューやアンケート調査を取り入れる。
- 協計0303　調査を通して得られたことを取り入れながら、次の活動を進める。
- 協計0203　「みなとみらいを語る会」などの発信を通して得た様々な立場の意見を取り入れながら、次の活動を進める。
- 協計0203　地域・保護者から得られた振り返りをもとに、新しい視点の獲得や考えの深化を図っている。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0203に関連するアンケート項目から、そう思うと感じている児童が多い一方で、まったくそう思わないと感じている児童もいました。このことから、クラスの活動という意識が高いことが分かりました。調査を続けることで、自分一人で解決できる問題と地域の人たちと協力しないと解決できない問題があることが分かってきました。地域の人たちと一緒に問題を解決しているという意識をさらに高めていけるように、アンケート後には地域の人たちに向けたワークショップや、自分たちの活動を伝えるイベントを計画していきました。

問❼：家や地域の人に、自分たちの活動へ協力（参加）してもらえていますか。 直接0201　直接0202



アンケート結果について ②

地域の人たちへのインタビューや働きかけるような活動を多くすることで、自分たちの活動を地域の人たちと一緒にしているという意識が高くなっていました。まちの人たちに向けた活動を趣旨としていたけれど、アンケートからは大きな変化が見られませんでした。このことから、まちの人や学校、周囲の大人たちにどのような影響があったかなどを実感するような活動をしていく必要があると感じています。そうすることで、直接0203につながる活動になるようにしていきたいと考えています。

問❽：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203　直接0204

その後の児童の様子　１回目のアンケートをふり返ることで、自分たちの活動がどのような人たちとつながっているのかを明確にすることができました。自分たちのまちの住人だけでなく、商店や企業に勤めている人も地域の人と捉えて活動を広げることで、まちや社会の役に立っていると考えるようになった児童が多くなりました。

脱プラスチック プロジェクト!

活動のきっかけ　昨年は、まちに自然を増やすための活動をしました。今年は、海の環境を守るような「ものづくり」がしたい、という思いで考え始めました。マイクロプラスチックも大きく話題になっていることに加えて、まちに落ちているごみや帷子川、臨港パークに浮いているごみが気になっていたからです。そこで、みなとみらいの海は汚れてしまっているのか調べてみました。

竹田さんの出前授業

木のストローづくり

クリスマスツリー点灯式

木のストローについて教えてもらうために、発案者の竹田さんにお願いをして来てもらいました。実際に木のストローを作ったり、山の環境についても教えてもらいました。

環境に良いことで取り組んでいることがあるかどうか、地域の人たちの意識調査をしました。クリスマスツリー点灯式では、分かったことをもとにメッセージを伝えました。

こどもエコフォーラム

ヨコハマベイクオーターでワークショップ

ワークショップや木のストローの体験会をして、環境を守る方法やその重要さを伝えました。

S/PARK Cafeでプレゼン

横浜市SDGsデザインセンターでプレゼン

木のストローを選んで使ってもらうために、S/PARK Cafeに環境問題の解決になることや自分たちの活動についてプレゼンテーションをしました。２月に置いてもらいました。

【協働・連携先】環境ジャーナリスト　竹田有里様／資生堂（S/PARK Cafe）／西区資源循環局／アキュラホーム／横浜市SDGsデザインセンター／ヨコハマベイクオーター／クイーンズスクエア横浜

5年1組

児童の様子　子どもたちは、まちの一員として持続可能なまちづくりをどうやって進めていくべきかを意識して活動しています。そこで、活動を通して、「どんな活動をどの順番で進めるべきか」「問題を解決してくなかで新たに生じた問題をどうするべきか」といった学習を調整していく力や、地域の方に活動を発信して協働していく力をさらに伸ばしたいと考えました。

直接0103　自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
間接0103　活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
間接0204　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
間接0203　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0103を全体的に意識している傾向が分かりました。高島水際線公園での実地調査を継続的に行っている結果だと言えます。２回目までの期間に、公園の潮入りの池の現状から、海洋ごみやヘドロなどの課題を把握し、その改善に向けたプロジェクトをスタートしたり、プロジェクトごとに話し合ってまとめたりすることで、より高まったと考えられます。

問❷：めあての達成や課題の解決に向かって、学習計画を立てて活動できましたか。 直接0102 直接0103

アンケート結果について ②

外部機関との連携、「みなとみらいを語る会」等での発信を通して、全体的に「そう思う」以上が増えました。友だちと意見を交流しながら発信する準備を進められた結果かと思います。しかし、担任が期待した数値よりは低い結果でした。「東京湾大感謝祭」や「アマモ・メッセンジャー」等は代表児童だけの発表となって学級全員で外部評価してもらう機会が少なかったことや昨年度実施した地域マンション全戸へのアンケート調査などは実施しなかったことなど、子どもたちの活動が「地域からどのように評価されているか」「地域の方へどのような影響を与えているか」といった実感が薄い様子が考えられます。

問❸：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203 直接0204

その後の児童の様子　そこで、残り３か月を「自分たちが活動したことを生かして、自分たちにできること」を考え、プロジェクトごとに実践することにしました。プラごみを減らすためにエコバッグ推進や給食のストロー削減を呼びかけたり、使い捨てカイロを用いたヘドロの土壌改善を進めたりなど身近な活動を実行していきました。また、横浜の海を再現した「海水槽」など、活動をまとめたり地域に発信したりしていくことにしました。

生き物が住みやすい環境を守っていこう ―みんなで海洋保全活動を進め、持続可能な公園に―

活動のきっかけ　横浜駅東口にある高島水際線公園。その公園は都市部にありながら、潮入りの池にはたくさんの生き物が生息していて、自然豊かな場所でした。ところが、地域の人にあまり公園は知られていませんでした。また、たばこやビニール袋などのごみが落ちていたり、ヘドロも多くたまっていたりしました。

海中教室

生き物観察

水質検査

ごみ拾い活動

高島水際線公園のごみ

COD（化学的酸素要求量）

水質検査

「海中教室」では横浜の海のなかをライブ中継で学校と結び、マイクロプラスチックなどの海洋ごみの現状を知りました。また、「高島水際線公園愛護会」や「横浜市環境化学研究所」の方のアドバイスをもらいながら、生き物の種類や数を調査したりCOD（化学的酸素要求量）や塩分濃度から水質検査を実施したりして、公園の現状を把握することから始めました。

地域のごみ拾い活動にも参加して、「生き物が住みやすい環境をつくる」というゴールを設定しました。

みなとみらいを語る会

古川さんへの報告

アマモメッセンジャー

みなとみらいを語る会

みなとみらいを語る会

カイロ回収箱の設置

「生き物・水質環境保全」「ヘドロ改善」「海洋ごみ・プラ削減」の３つのプロジェクトにわかれ、「みなとみらいを語る会」や「アマモ・メッセンジャー」「ESD推進校交流会」で活動報告を行いました。それぞれのプロジェクトで「自分たちができること」を考え、行動に移しました。

【協働・連携先】ハマの海を想う会　吉野生也様／海辺つくり研究会　古川恵太様／横浜市SDGsデザインセンター／横浜市環境科学研究所／みなとみらい21熱供給株式会社／一般社団法人横浜みなとみらい21

5年2組

児童の様子

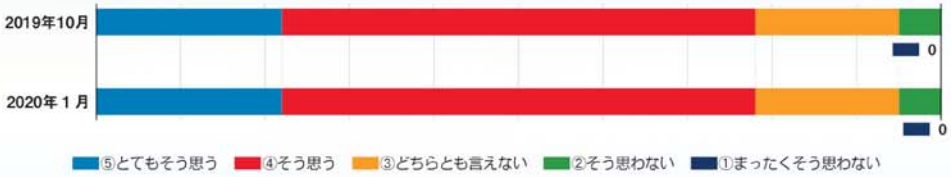
水際線公園の生き物と触れ合いながら、みなとみらいの生き物について考えました。「生き物とたくさん触れ合いたい！」「生き物は好きだけど、自分たちの思いだけでは向き合えてないかも」――。そこで、みなとみらいの「自然」と「生き物」を視点に自分たちが住むまちを考え、全校や地域の方との関わりを通して「生き物の命の大切さ」「生き物を増やしたい」という思いを軸に学習環境をデザインしました。

- 課題0103　自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
  - 取組010301　活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
  - 取組010302　自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気付く。
  - 取組010303　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
- 課題0201　相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気付いている。
  - 取組020101　根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
  - 取組020102　相手の考えに寄り添って聞く。
  - 取組020103　ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話合いをする。

アンケート結果について ①

直接アウトカム0103に該当する本回答においては、８割近い子どもたちが肯定的に評価していることが分かりました。多くの専門家の方との関わりや教室の枠を超えて様々な世代の人とのつながりに良さを感じているのではないかと考えます。

問❹：新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。 直接0103



アンケート結果について ②

直接アウトカム0201に該当する本回答においては、より肯定的な回答数の増加が見られました。クラス全体共有だけでなく、個々の振り返りなどにも重点を置き、一人ひとりの思いや考えを大切にしました。その結果、自分の考えに自信をもったり安心して他者に伝えたりすることにつながったと考えます。この学習の流れをくり返すことで、多くの人の意見を聞くよさを実感することにつながったと考えます。

問❻：友だちの意見を受け入れたり、一緒に考えたりして、話し合いに取り組みましたか。 直接0201

その後の児童の様子

子どもたちは、自分たちの思いや願いに向き合うことで、「できる」「できない」ではなく、自分たちの思いや願いをどうすれば形にすることができるかを考えるようになってきました。また、クラスの友だちだけではなく、全校や地域の人々、そして専門家と思いを伝え合うことを通して見方や考え方の広がりを実感し始めました。

18人で人も生き物もつながりがもてるMMオアシスをつくろう

活動のきっかけ

５年２組では、生き物のために、環境のために、私たちの学校のために、地域の人のために、そして下級生のために「生き物と触れ合い、人とつながれる、そんな空間をつくりたい」という思いから活動をつくっていきました。

活動を進めるなかで、何度もクラスで話し合いをくり返しました。一人ひとりの思いを共有し合うことでクラスとして同じ目標に向かって活動を進めることができました。また、18人で話し合うことで新たな見方や考え方に出合うことでより見方や考え方が広がりました。その広がりによって、様々な課題解決に向けて子どもたち自身で考えることができるようになったと考えます。

多くの人に関わっていただきながら活動を進めていきました。まちに対して、子どもたちは「緑が少ない」と感じていたため、みなとみらいの緑を管理している都市整備局の方に来ていただき、まちの現状を説明していただきました。まちには、どれくらいの生き物がいるのか、実際に近隣の公園に継続的に生き物観察に出かけました。その際にはトンボを継続して観察して活動されている方にもご協力いただきました。

子どもたちの疑問や思いを教室から飛び出し、専門家と共に活動を積み重ねることで知識を裏付ける経験や体験ができました。それらの経験が発展的な課題解決学習になったと考えます。

まちの壁に絵を描く活動では、西土木事務所の方々が安全面や子どもたちが安心して活動を進められるように環境を整えてくれました。多くの人の支えで活動がつくられることを実感しました。

クラスを飛び出して、まちへ街頭インタビューに行ったり、全校児童へアンケートを実施したりすることで、自分たちの考えの根拠を明確にすることができました。

【協働・連携先】横浜市都市整備局／横浜市西土木事務所／鶴見区とんぼファーム／株式会社ゼネフィル

6年1組

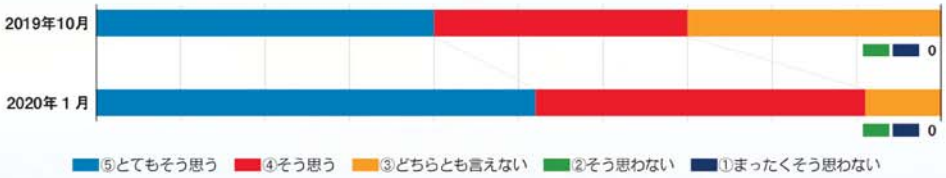
児童の様子　本学級では「地球温暖化」と「ヒートアイランド現象」に問題意識をもちました。これらの環境問題については、様々な環境対策が進められています。しかしながら、身近なみなとみらい地区の環境対策についてはあまり知らないという子どもの実態がありました。子どもが地球規模の環境問題を考えつつ、身近な環境対策から積極的に実行していくこと、地域で環境対策に取り組む人々の活動とその思いを理解すること、この二つを大切にしながら学習環境をデザインしました。

- 直接0103　自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
  - 間接0103001　活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
  - 間接0103002　自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気付く。
  - 間接0103003　専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
- 直接0204　地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
  - 間接0204001　保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
  - 間接0204002　自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
  - 間接0204003　地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを見信したり行動したりする。

アンケート結果について①

直接アウトカム0103に該当する本回答においては、全体的に、より肯定的な回答数の増加が見られました（上昇９名、下降３名）。これまでの主体的な試行錯誤と専門家等による継続的な価値付けが、児童の考えの更新と発展的な課題解決学習を促した成果と考えられます。

問❹：新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。 直接0103



アンケート結果について②

直接アウトカム0203、0204に該当する本回答においても、全体的に、より肯定的な回答数の増加が見られました（上昇10名、下降４名）。とくに、カーボンオフセット活動やペットボトル分別活動など、11月から全市的もしくは全校的な取り組みを行った児童に上昇傾向が見られました。こうした児童は、自身の活動に社会的な意味づけがなされたことで、まちの人や社会への貢献をより実感するようになったと考えられます。

問❽：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203 直接0204

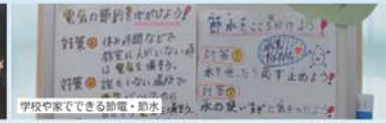
その後の児童の様子　子どもたちは、考えて終わりにするのではなく、それを一つひとつ実行に移してきました。活動を積み重ねていくうちに、その範囲も個人から学校、社会へと広がっていきました。将来の社会像や自分像について考えた際には、SDGsの視点からの意見が多く見られました。

ものづくりからSDGsを考える —Think Globally, Act Locally—

活動のきっかけ　６年１組では、「地球温暖化」「ヒートアイランド現象」を解決するためにはどうすればよいのかを考えることから始めました。議論をすすめていくうちに、みなとみらいや学校にはどのような環境的な問題があるのか、またどのような対策がなされているのかという疑問が生まれました。

第１回活動報告会

ヒートアイランド対策ミスト


学校や家でできる節電・節水

雨水の再利用

緑ウイーク

再利用ボプリ

土壌混合法

「学校平面図から緑化率を求める」「２年間の電気・水道使用量を比較する」「サーモグラフィーカメラや放射温度計を用いて、グラウンド・テラスと芝生の地表温度を比較する」など、分析的に学校の環境的な問題を調べました。その結果をもとに、子どもたちは具体的な環境対策を始めました。自由試行（メッシングアバウト）を軸とした活動を通して、試行錯誤を重ねました。

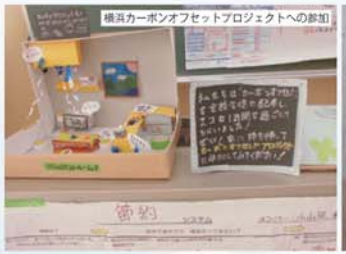
地域冷暖房とみなとみらいの環境対策

G20関係者視察

ごみの分別とリサイクル

地域や世界の環境対策に寄与している企業や専門家の取り組みを知る機会も多く設けました。また、こうした方々をゲストティーチャーとして招き、自分たちが取り組んでいる活動についてのアドバイスもいただきました。

このように、学校を越えた関わりを通して、子どもたちは、問題意識を洗練させていき、自由試行的な活動をより課題解決的な活動へと発展させていきました。


横浜カーボンオフセットプロジェクトへの参加

ペットボトル分別活動

みなとみらいを語る会

地球規模の環境問題を考えつつ、身近な学校の環境問題の解決から始まった活動も、カーボンオフセット活動やペットボトル分別活動など学校外の社会とのつながりを意識した活動が見られるようになりました。

また、みなとみらいを語る会では、自分たちの活動がいかにSDGsと関係しているのかを自信をもって語っている姿が見られました。

【協働・連携先】三菱重工業株式会社／みなとみらい21熱供給株式会社／横浜市資源循環公社／西区役所地域振興課

6年2組

児童の様子

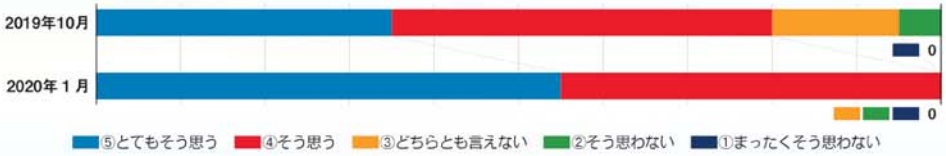
分からないことは本やネットで調べて解決することが多く、知識豊富な子どもたちです。自然や生き物に対しての関心は高いものの、自然と親しむ経験は少なく、観光地や水族館などでしか自然と触れ合ったことのない子がほとんどでした。しかし自分たちの地域の海について、どんな生き物がいるのか、どんな場所なのか、もっと知りたいという気持ちや、みなとみらいのまちのよさを未来に残すために、何かしたいという気持ちをもっていました。

- 直接0103 自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
  - 間接0103 活動を進めるなかで計画を見直したり、問い続けたりして学習を調整する。
  - 間接0103 自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気付く。
  - 間接0103 専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
- 直接0204 地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
  - 間接0204 保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
  - 間接0204 自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
  - 間接0204 地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを発信したり行動したりする。

アンケート結果について ①

グラフから、新しい課題や方法にチャレンジしたと感じている子が増えていることが分かります。10月以降、校内に干潟のモデルを作るという活動に入ると、それまでに干潟や池で調査したことを、何を使ってどのような形にしたら生き物の命を奪わずに下級生に伝えられるかを、何度も模索した結果だと思われます。

問❹：新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。 直接0103



アンケート結果について ②

グラフから、自分たちの活動がみなとみらいのまちの役に立つと考えている子が増えたことが分かります。下級生や地域の人たちへ干潟のよさを伝えてどうなってほしいのかを議論すると、「地域の人に海を守る意識をもってほしい」という目的が明確になりました。この目的に沿ったプレゼンを行い、来場者から大好評を得たことが、子どもたちに「まちの役に立っている」という自信を与えたのだと考えられます。

問❽：自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。 直接0203 直接0204

その後の児童の様子

「みなとみらいを語る会」の来場者のアンケートを検証すると、干潟や海の生き物のよさは100%伝わったが、潮入りの池を干潟にすることには、あまり賛成していないことが分かりました。原因は干潟への誤解と海との触れ合いの少なさだと分析した子どもたちは、都会に干潟をつくる意義を改めてまちに向けてアピールすることにしました。「アピールするだけではなくて、自分たちでゴミ拾いをしよう」という意見も出て、この活動の先に持続可能なまちづくりがあることを意識するようになってきました。

みなとみらいの海を皆で守ろう ―生き物の多様性と共生するために―

活動のきっかけ

今年は自然に関わるテーマで総合学習を行いたいと、多くの児童が希望していました。地域団体の「ハマの海を想う会」の方から、臨港パークの潮入の池を干潟にしたいという思いを聞くと、自分たちもその活動に関わりたいと考えるようになりました。

そこで、「干潟とは何だろう」という疑問から、本やネットの情報を集めたり、実際の干潟や現状の池を何度も観察したりして、どんな場所になるとよいのか考え始めました。

臨港パーク　潮入の池

天然干潟　貝殻浜

人工干潟　潮彩の渚

干潟とは、砂や泥や潮の満ち引きによって、多様な生物が生態系をつくるところだと分かりました。天然干潟の貝殻浜や、人工干潟の潮彩の渚を調査して、臨港パークの潮入りの池との違いや、これからどんな場所にしていけばよいのかが見えてきました。

吉野さんに理想の池の姿をプレゼン

ミニ干潟づくり

みなとみらいを語る会

分かったことから理想の潮入りの池について一人ひとりが考え、ハマの海を想う会の吉野さんにプレゼンをしました。様々な子どもたちのアイデアが、将来の潮入りの池のリニューアルに反映される予定です。

また、干潟や海の生き物のよさをもっとたくさんの人に分かってもらいたいと、たらいでミニ干潟をつくりました。試行錯誤したミニ干潟と、動画や模造紙を使って、地域の方や下級生に、「みなとみらいの海を持続可能な場所にしたい！」という熱い思いを伝えることができました。

【協働・連携先】ハマの海を想う会　吉野生也様／国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所／パシフィコ横浜内臨港パーク

令和元年MMオリンピック

運動会では、運動会実行委員の子どもたちが「だれもが楽しめる競技にしたい」という思いを代表委員会に提案して、パラスポーツの要素を全校競技に取り入れました。

前年度までの大玉送りでは、下級生は玉に触れることができていなかったことから、身長差に関係なく取り組める競技として「パラスポころがし」を考えて、実行することができました。

全校遠足

6年生が中心となり計画した遊びを学年分け隔てなく楽しんだり、高学年の子が下級生に公共のマナーを教えたりする姿が見られました。全校遠足や、毎月のたてわり活動での交流だけでなく、各教科で他学年と交流することで、自分とは異なる他者と協働する力を身に付けています。

みなとみらいPark Day&Night
～高島中央公園SDGsについて考えよう～

SDGsの17の目標をイメージした17色のキャンドルが灯されました。当日に向けて、ABURABITO油人の今城さんの説明を聞きながら食用廃油を使ったキャンドルを全校児童で作りました。リサイクルや環境負荷について考えるよい機会となりました。

パラスポーツ講演会

パラリンピアンの高田夫妻による全校児童へ向けた講演が行われました。自分の立場だけでなく、様々な立場に立ち、ものの見方や考え方を深めるきっかけとなりました。

G20関係者による学校視察

2019年G20サミット教育関連イベントの一環として、G20関係者による学校視察が行われました。世界の大都市が共通して抱える課題（持続可能な消費、持続可能な都市づくり等）をテーマに、日本の教育実践への理解を深める目的で、全校でESD/SDGsに取り組む様子を視察されました。授業公開後、ポスターセッションで自分たちの取り組みや思いも伝えました。

学校行事

人権講演会

ヨコハマ・パラトリエンナーレを立ち上げたNPO法人スローレーベル理事長の栗栖良依さんをお招きして人権講演会が行われました。映像を交えながら、共生社会の実現に向けて、２つの「そうぞうりょく（想像力と創造力）」を磨いてほしいと語られ、多様性や相互理解について考えるよい機会となりました。

みなとみらいを語る会

各学級でこれまで取り組んできた活動を発信したり、他学年の取り組みを知ったりすることができました。他学年の子や保護者からの意見や助言をもらい、これからの活動に生かす上で、とても有意義な意見交換の場となりました。

クイーンズスクエアのツリー点灯式

全校を代表して４年生が自分たちが望む「みなとみらいのまち」を発表しました。また、学級で行っているウッドストローを制作する体験ブースを設け、地域の方に、「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」「つくる責任、つかう責任」の大切さを伝えました。

学校運営協議会／みらい共創ネットワーク！

みんなで支えるESD ――コミュニティ・スクール&みらい共創ネットワーク！――

みなとみらい本町小学校には、ESD を支える２つの機能があります。

1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

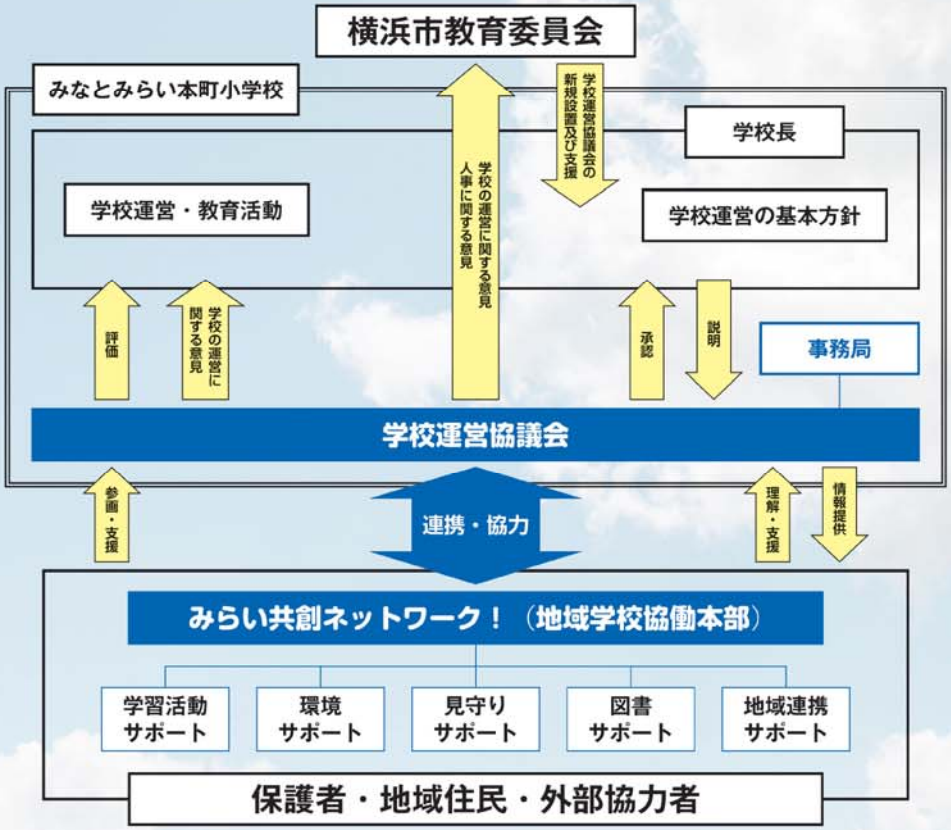
教育委員会から学校運営協議会の設置が認められた学校を「コミュニティ・スクール」といいます。本校でも2019年10月に学校運営協議会の設置が認められ、コミュニティ・スクールとなりました。

学校運営協議会は、教育委員会から任命された委員による、学校運営の基本方針の承認や学校運営に対する意見を通して、関係者の皆さんの意見を反映した協働的な学校づくりを目指します。

本校の重点取り組みであるESDの推進についても、学校運営協議会で承認され、関係者が一体となって推進することが確認されました。

2 みらい共創ネットワーク！（地域学校協働本部）

幅広い地域住民や民間企業、NPO等が参画し、地域と学校が連携・協働しながら、地域社会全体で子どもたちの成長を支え、地域社会を創生することを目指す「地域学校協働本部」として、2018年９月に「みらい共創ネットワーク！」がスタートしました。ESDを推進するための多様で豊かな子どもたちの活動を支えています。



編集後記

知りたいことの
おおよそ半分は
ネットや本で
調べればわかることだ
どこにも載っていない
「もう半分」を
知るためには……
自分で考え出すか
経験するしかない

――漫画『宇宙兄弟』より

学力・学習状況調査で、市や全国の平均を20ポイント以上も上回る本校の子どもたちにとって、「もう半分」を探究する学習こそが、学ぶ意義や意欲を実感できる、必要感のある学習ではないかと思います。

いわばESDとは、この「もう半分」を知るための学習活動だと言えます。世界を変えるための17の目標「SDGs」を達成するための答えは、どこにも載っていません。子どもたちは自分でくり返し考え、経験し、様々な人々と協働して話し合うなど、一歩一歩前進しながら探究を続けてきました。「世界中の人々が、ずっと笑顔で過ごせるように」と願って。

そのようにして学習し、自分なりの考えを構築する楽しさ、協働して探究する楽しさを実感することが、子どもたちにとって何よりの財産になったのではないかと思います。

本校の職員も同様に「もう半分」を探し求めて学校の外に飛び出し、地域・企業等様々な方々のご指導を受けながら、「子どもたちに必要なものは？」「考え、経験させたいことは？」と教材研究に励み、多くを学ばせていただきました。

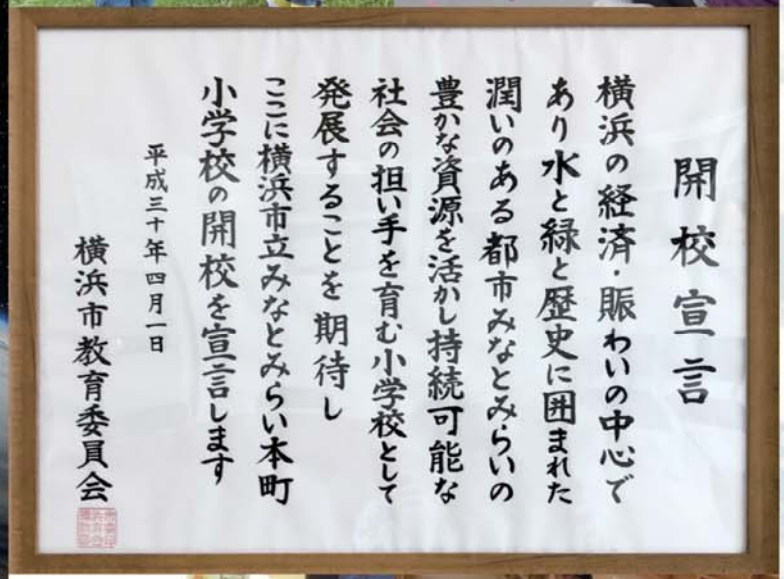
本誌にはそんな子どもたちと職員、ご指導・ご協力いただいた多くの方々との協働的、探究的な学びの記録をまとめることができました。ご一読いただき、さらなるご指導・ご助言を賜ることができれば幸いです。

＊

結びになりますが、本校ESDの推進に当たり、多くの保護者・地域・団体等の皆様にご指導・ご協力をいただきましたことと、東洋大学　米原あき教授をはじめとして、多くの講師・助言者の先生方にご指導・ご助言をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

今後とも、本校教育活動の更なる発展、充実のために様々なご指導とご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

横浜市立みなとみらい本町小学校　副校長
Toshio Matsubira **松比良聡夫**



開校宣言

横浜の経済・賑わいの中心であり水と緑と歴史に囲まれた潤いのある都市みなとみらいの豊かな資源を活かし持続可能な社会の担い手を育む小学校として発展することを期待しここに横浜市立みなとみらい本町小学校の開校を宣言します

平成三十年四月一日

横浜市教育委員会

2019年度　教職員

校　長
小正　和彦

副校長
松比良　聡夫

＊

赤津　淳子
赤岡　鉄矢
朝野　仁之
一色　　恵
小川　芳夫
河原　早希
木輪　和代
眞木　由紀恵
鈴木　寿美
スズキ　バレリー
高原　洋介
田島　尚子
田中　雄大
田屋　宏人
津田　迪加
戸田　くみ子
中籔　直人
林　さよ子
葉山　笑美子
半澤　祐美子
パトリシア　フィッシャー
日景　皐月
広瀬　ひろみ
藤山　貴生
平馬　　尚
堀江　加奈子
松尾　健一
茂木　英子
杢田　陽花
望月　勇太
矢野　美津子
山﨑　絹子
渡辺　美由紀

――五十音順――

未来創造 Minato Mirai Honcho Elementary School **ESD BOOK feat.MM 2019**

2020（令和２）年２月28日発行
発行者：小正和彦
発行所：横浜市立みなとみらい本町小学校
〒220-0011　横浜市西区高島1-2-3
電話：045-451-1515

小学校ホームページ